



一般社団法人 日本物理学会

日本物理学会領域2 役員会議

日本物理学会2022年秋季大会

2022年9月10日17時00分～19時00分

オンライン

物理学会領域2運営会議 アウトライン

- 1) 2022年10月からの役員体制・役割分担
- 2) 2023年4月からの領域代表、副代表の推薦
- 3) 第77回年次大会(2022年春) 学生優秀発表賞に関する報告
- 4) 米沢富美子記念賞 授賞候補者の募集について
- 5) 2023年春季大会シンポジウム・招待講演等の提案
- 6) 領域委員会報告
- 7) 領域2での確認事項と議題
- 8) 講演件数の推移
- 9) 講演概要集提出率
補足
2023年3月 春季大会 (オンライン)
2023年9月 第78回年次大会 (東北大学)
- 10) その他

1. 2022年10月からの役員体制・役割分担

(2022.4～2023.3)

領域代表 千徳 靖彦 (大阪大学)
 領域副代表 藤堂 泰 (核融合研)
 領域前代表 稲垣 滋 (京都大学)

(役員 2020.10～2023.9 : 領域委員 2020.10～2022.9)

役員 本島 巖 (核融合研)
 役員 相羽 信行 (量研機構)
 役員 福田 祐二 (量研機構関西)

(役員 2021.10～2024.9 : 領域委員 2022.4～2024.3)

役員(領域運営委員) 藪内 俊毅 (高輝度光科学)
 役員(領域運営委員) 四竈 泰一 (京都大学)
 役員(領域運営委員) 斎藤 晴彦 (東京大学)

(役員 2022.10～2025.9 : 領域委員 2022.10～2024.9)

役員(領域運営委員) 佐々木 真 (日本大学)
 役員(領域運営委員) 三瓶明希夫(京都工繊大)
 役員(領域運営委員) 菊池崇志(長岡技科大)

	2022.10からの役割分担
大会(プログラム編集・会場設定)	斎藤(正)、四竈(副)、相羽、佐々木、三瓶
運営委員の連絡責任者	四竈
シンポジウム・招待講演・企画講演	藪内(正)、斎藤(副)、三瓶、本島
企画セッション	四竈、菊池
3学会合同世話人	菊池(正)、藪内、福田
チームとの合同セッション担当	菊池(正)、藪内、福田
表彰・若手賞	藤堂(副代表)、本島(共同研究世話人)
学生優秀発表賞	千徳、藤堂
学生優秀発表賞担当	相羽(正)、斎藤、佐々木
会計・予算	千徳(代表)
学会連携	金子、千徳、福田、四竈、佐々木
広報(ホームページ)	本島、菊池
メーリングリスト	本島
編集(JPSJ)	藤堂(副代表)
役員会・運営委員会幹事(書記)	四竈(正)、三瓶
NIFS共同研究所内世話人	本島

2022年9月で任期終了の役員

(役員 2019.10～2022.9 : 領域委員 2020.4～2022.3)

役員(領域運営委員) 小林 進二(京都大学)

役員(領域運営委員) 佐野 孝好(大阪大学)

役員(領域運営委員) 沼田 龍介(兵庫県立大学)

2023年10月からの次期役員のおすすめ

- 2023年春季大会での領域2運営会議
- 役員への立候補を希望される方は領域代表まで連絡を(年内)。

2. 2023年4月からの領域代表、副代表の推薦

次期領域代表 藤堂 泰 さん（核融合科学研究所）

次期領域副代表 長崎 百伸 さん（京都大学）

10/25? までに、物理学会担当あてに推薦書提出

11/? 領域委員会において承認の予定

3. 学生優秀発表賞受賞者報告

第77回(2022年)年次大会 (online) での受賞者

梅崎 大介 氏(九大院工)

「ダイバータプラズマにおける大角度散乱を利用した粒子輸送制御」

J.J. Simons 氏(SOKENDAI)

「Evaluation of saturated absorption condition of hydrogen Balmer- α line due to laser pumping」

杉本 馨 氏(阪大理)

「相対論的レーザープラズマ相互作用における線形 Breit-Wheeler 過程による電子・陽電子対生成」

瀧澤 龍之介 氏(阪大レーザー研)

「超高コントラストレーザーによる核融合プラズマの加熱」

皆川 裕貴 氏(日大生産工)

「光渦レーザー吸収分光法における方位角ドップラーシフトの絶対値評価」

※応募者数28名の中から5名を選出。前回は34名の応募があり、そのうち5名を選出。

※ 2018年秋季大会から、学生優秀発表賞は日本物理学会が授与する賞となった。

※2021年秋季大会から、授賞回数の上限を2回とした。

4. 米沢富美子賞(2023)の募集について

授賞の対象者

日本物理学会（以下、本会）の女性会員で、**2022年10月末日**において**最終学位取得後15年以内の方**（**最終学位が修士、学士の場合はその学位取得後**）。諸事情により物理分野での活動に空白期間があれば、その年月は考慮いたします。

評価対象

米沢富美子記念賞（以下、本賞）の選考においては、研究業績、物理学教育活動、本会活動への貢献、その他物理学分野の発展に関わる社会的活動などの業績一般を評価対象といたします。本賞は、本会が授賞する他の賞からは全く独立です。

毎回5名程度を上限として若干名。

授賞式は物理学会年次大会の総合講演会場。

受賞者は、賞状等の記念品、1年以内の大会での記念講演の他、副賞として、(1) 向こう3年間の大会参加費・概要アクセス権、(2) JPSJ掲載料・オープンアクセス化権もしくはPTEP掲載料から総計20万円分の免除（受賞後の投稿につき3年間有効）が与えられる。

領域2から、2名を上限として授賞候補者を推薦することができる。

領域2 の締め切り：**2022年10月21日（金）（学会へは10月25日）**

提出先：領域副代表 藤堂（tohdo.yasushi@nifs.ac.jp）

5. 春季大会2023年 シンポジウム等の提案

学会の公募受付は10月下旬締切

提案者は、申し込みの前に役員会へ案を提出するようにお願いします。

運営会議後はメーリングリストにて審議

- 企画講演(0件)
- 招待講演(0件提案)

- 若手奨励賞受賞記念講演(最大2件)
- シンポジウム(0件提案)

企画セッションの提案

募集中。企画セッションは他領域との合同も可能である。

2021年秋季大会より

「トリガーを捉えるメタステート科学」

期間: 2023年春季大会まで4回 (申請によりさらに4回の延長が可能)

2022年秋季大会 発表件数 12件

6. 領域委員会(2022年5月19日)報告

オンライン開催の是非

オンライン大会の定期開催に関して、各領域で持ち帰り調査することとなった件について、インフォーマルミーティング等でまとめた意見について各領域からの報告を受けた。様々な意見があったものの、総じて「年1回対面開催、年1回オンライン開催」に強い反対はなく、理事会からの「オンライン大会の定期開催」の提案は本委員会内では承認された。

各領域からは以下のコメント、意見が上がった。

- 研究費等の都合や学生のスケジュールを考慮すると春がオンラインのほうがいい。
- 領域13の高校教員の方は、秋がオンラインの希望が多い。
- ビーム物理領域は年次大会のみの開催なので、春に年次大会を現地開催希望。
- 年次大会、秋(春)季大会を交互にオンライン開催にするのもよいのではないか。
- 応物でハイブリッド開催の現地実行委員を行ったが、思った以上に現地の負担が大きかった。
- 育児中の研究者にはオンライン開催はメリットが大きい。
- オンライン開催は国際化を進めるのによい。学生のスキル向上にも役立つ。
- 学生、若手研究者のために現地開催は必要なので対面やりたい人も多い。

年次大会・秋(春)大会のいずれをオンライン開催とするかは結論なし。

2023年春は春季大会としオンライン開催。2023年秋を年次大会とし東北大で開催予定。

7. 領域2での確認事項と議題

Plasmaメーリングリスト(PlasmaML)の運用

添付ファイルは常識の範囲内で「1MB以下のpdf」

受賞報告をMLで配信可

不適切なメールは領域2代表の責任下で役員会の了承もと削除できる

学生優秀発表賞

一次審査の審査委員の人数を「3名」から「3名以上」とする

受賞回数を2回に制限する。

講演の英語対応(適応時期は未定)

講演は日本語で構わないが、スライドの英語化を推奨する。

将来的には概要集を英語で書くことも推奨する。

7. 領域2での確認事項と議題

シンポジウム、招待講演

時間は原則3.5時間以内。

招待講演候補者の共著者は提案者になれない。○○Groupや○○Teamsに注意。
提案書では必ずreferenceを挙げる。

シンポジウム等でのonline登壇

シンポジウム提案の際に、申込み画面の内容説明欄などで、現地開催の場合もオンライン配信になる可能性がある講演があることを明記する。

→今後は現地開催でも対応可能であればonline登壇を認めてはどうか？英語化に関連してオンラインでの海外からの参加者の可能性を広げるという議論がある

物理学会一般共同研究費の用途

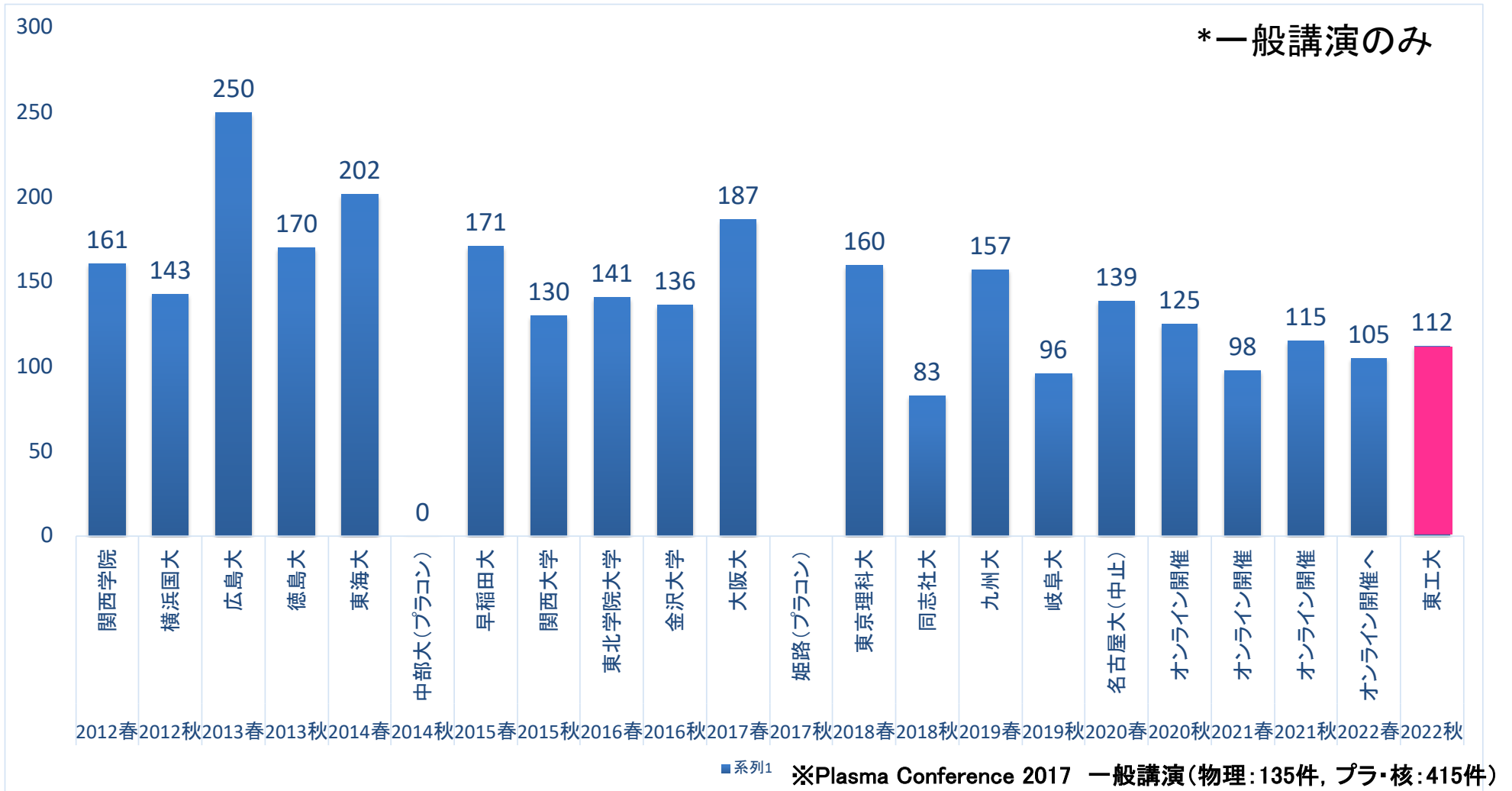
20万円程度あるが、旅費としては使えないであろう。

昨年度も全額返納している。

何か有意義な用途はないか？

旅費の用途制限は緩和されている。

8. 領域2講演数の推移



- ここ数年, 110前後の講演数で推移.
- 引き続き, 講演数増加の対応策を検討したい.

9. 概要集提出率

2022年秋季大会 概要集提出率

*シンポジウム等含む

領域	講演者数	論文提出数	論文提出率
領域1	141	134	95.0%
領域2	112	107	95.5%
領域3	166	161	96.9%
領域4	112	107	95.5%
領域5	201	198	98.5%
領域6	114	106	92.9%
領域7	80	74	92.5%
領域8	321	317	98.7%
領域9	46	46	100.0%
領域10	94	93	98.9%
領域11	341	308	90.3%
領域12	138	129	93.4%
領域13	61	59	96.7%
素粒子論領域	161	82	50.9%
素粒子実験領域	223	145	65.0%
理論核物理領域	88	70	79.5%
実験核物理領域	152	122	80.2%
宇宙線・宇宙物理領域	241	138	57.2%
合計	2792	2396	85.8%

物性合計	1927	1839	95.4%
素核宇合計	865	557	64.4%

10. その他

10-1. 領域2懇親会

秋季大会はコロナ禍でのオンサイト開催であるため、残念ながら懇親会は開催できません。